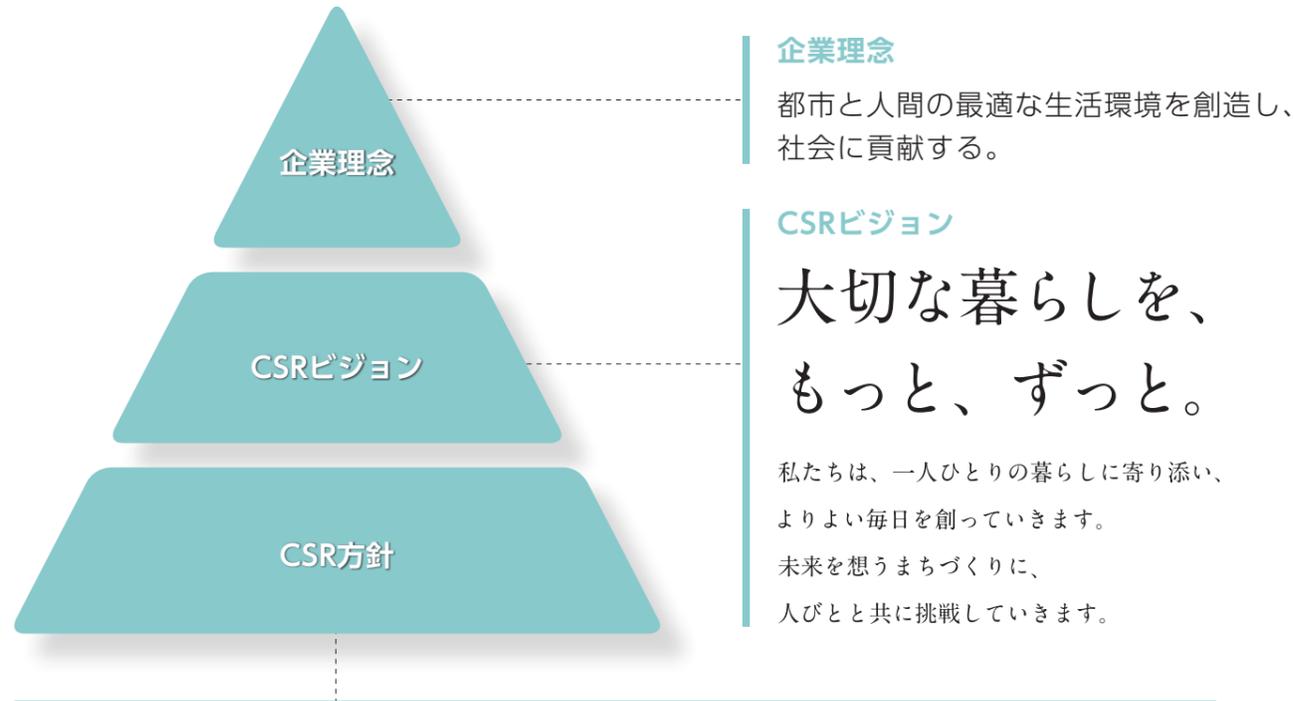


長谷工グループのCSRマネジメント

私たち長谷工グループは、長期的な視点に立ち、暮らしを取り巻く社会課題を、事業を通じて解決していくことを目指しています。

2018年度は、行動計画策定プロジェクトを通じてCSRビジョンの実現に向けた取り組み項目を整理し、PDCA開始に向けた準備を行いました。



CSR方針

私たち長谷工グループは、CSRビジョンの実現に向け、次の方針のもとに、CSRへの取り組みを推進していきます。

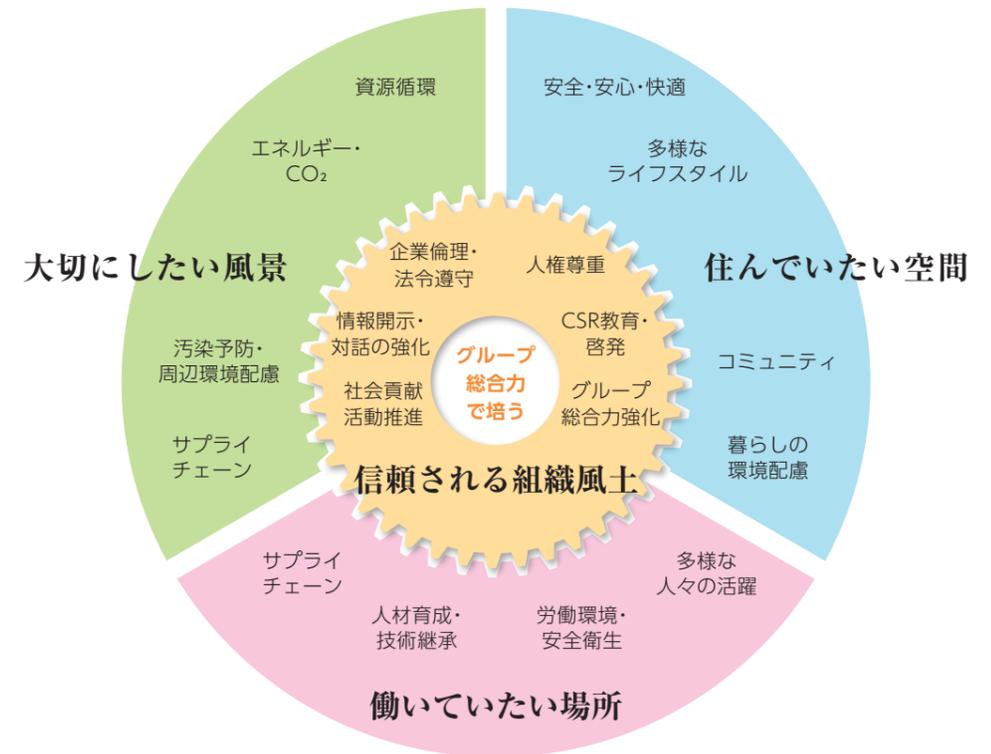
1. 住まいと暮らしに関わる幅広い事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。
2. 環境や社会に配慮した事業プロセスの実現に向けた取り組みを、ステークホルダーと協働して推進します。
3. 生活者をはじめとする様々なステークホルダーの期待に応え、社会に新たな価値を生み出し続けていくために、グループ総合力を最大限に活かすマネジメントを強化します。
4. 企業活動のすべてにおいて、高い倫理観のもとに、法令遵守を徹底します。
5. CSR取り組みの継続的な改善を図っていくとともに、情報開示を積極的に進め、組織としての透明性を高めます。

▶ グループ総合力

CSRへの取り組み推進の核となるのは、私たちが大切にしている「グループ総合力」です。



4つのCSR取り組みテーマ



| | |
|------------------|---|
| 住んでいたい空間 | 様々なひとが安心して暮らし、成長し、それぞれのスタイルで生き生きと過ごす空間をつくっていきます。保育、教育、介護、福祉など、暮らしの質を上げていくための事業を推進していくとともに、さらなる安全・安心と環境配慮を暮らしのスタンダードにしていきます。 |
| 働いていたい場所 | 多様な人々が活躍する、安全で生産性の高い職場をつくっていきます。住まいと暮らしに関わる技術とノウハウを備えた人材が、熱意溢れるチームワークの広がる職場で、協力会社とともに今と未来のまちづくりに挑戦していきます。 |
| 大切にしたい風景 | 住まいをつくり、暮らしのサービスを提供するプロセスの環境配慮を推進します。生態系への影響に配慮し、資源・エネルギー効率の向上を追求し、協力会社とともに自然を大切にする現場・職場をつくっていきます。 |
| 信頼される組織風土 | ステークホルダーから信頼され、ともに価値を生み出すグループであり続けるために、組織として果たすべき取り組みを着実に実践していきます。また、グループの総合力を活かすマネジメントを強化し、住まいと暮らしの新たな社会・環境課題を的確にとらえ、事業を通じた社会貢献の領域を常に開拓していきます。 |

CSR推進体制

2019年4月、CSRを組織的に推進していくことを目的としたマネジメント体制を発足しました。併せて、長谷工コーポレーション各部門及び長谷工グループ各社から「CSR委員会 委員」「CSR担当役員」「CSR推進リーダー」を選出。グループ全体でCSRに取り組む体制を整備しました。

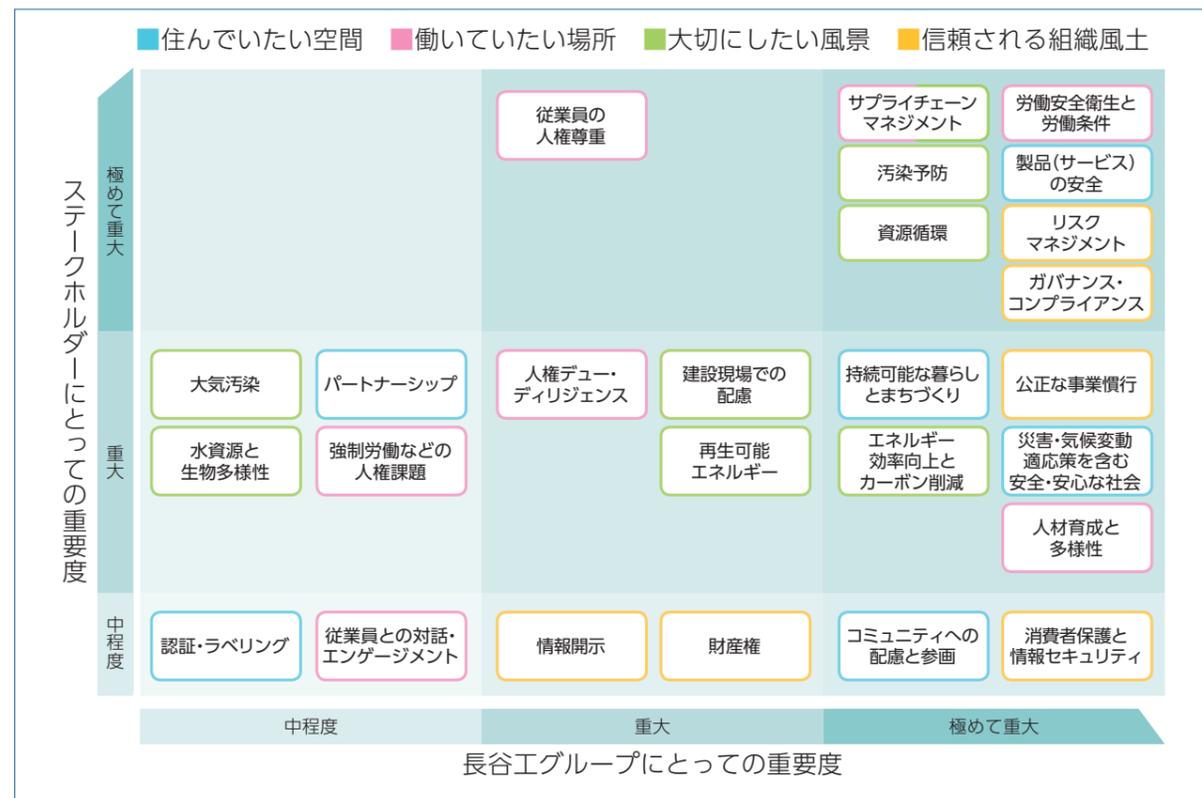
マネジメント体制図



マテリアリティと4つのCSR取り組みテーマの関係性

長谷エグループでは、CSR活動におけるマテリアリティ（重要課題）を特定・優先順位付けし、CSRを推進する上での指針としています。マテリアリティ・マトリックスで明らかになった、重要性の高い社会・環境課題項目は、4つのCSR取り組みテーマの要素としてすべて盛り込んでいます。

 マテリアリティの特定プロセスについてはこちらをご覧ください。
<http://www.haseko.co.jp/hc/csr/feature.html>



CSR活動の推進

若手～中堅社員を中心に集まったワーキング・グループでの議論を通じて、4つのCSR取り組みテーマにひもづく、18のサブテーマに関連する「長谷エグループCSR行動計画」のフレームワークを策定しました。明文化した、「2037年(創業100周年)のありたい姿」の実現に向け、2019年度から行動計画に則ったCSR活動を推進しています。

| 4つのCSR 取り組みテーマ | 18の重点 サブテーマ | 2037年(創業100周年)ありたい姿 |
|-------------------|-----------------------|---|
| 住んでいたい 空間 | 安全・安心・快適 | 安全・安心・快適な建物とサービスの供給を徹底して追求し、長寿命な住まいを提供している いつでもどこでも快適で衛生的な暮らしを提供している 防犯・見守り等の観点から、誰もが安心して暮らせる環境を実現している 災害に強い暮らしとまちづくりに貢献している |
| | 多様なライフスタイル | 新たな住まいと暮らしの価値を提供し、子どもからシニアまで多様なライフスタイルを支えている |
| | コミュニティ | 保育、教育、介護、福祉をはじめ、暮らしに関わる様々なサービスへ容易にアクセスできるまちづくりに貢献している 地方都市の活性化を推進している 地域コミュニティ形成に貢献している |
| | 暮らしの環境配慮 | 住まいと暮らしの環境技術をリードする企業になっている 暮らしの資源循環を後押しする住まいとサービスを提供している |
| 働いていたい 場所 | 多様な人びとの活躍 | 多様な個性・価値観を認め合い、すべての社員がやりがいを持って、自分らしく活躍できる環境が整っている |
| | 労働環境・安全衛生 | 全ての職場で安全で衛生的な労働環境を実現している 社員一人ひとりの、心身の健康づくりを支援している 業務効率化・生産性向上につながる先進技術活用をリードしている |
| | 人材育成・技術継承 | 未来の住まいと暮らしに関わる人材を育成する多種多様な教育を実施している 住まいと暮らしについて、子どもから大人まで広く学べる場を提供している |
| | サプライチェーン | 協力会社とともに安全で生産性の高い職場を実現している |
| 大切にしたい 風景 | 資源循環 | 全ての事業活動において、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を徹底して実践している 集合住宅における木材活用において先進的な取り組みを推進している |
| | エネルギー・CO ₂ | 全ての事業活動において、高いエネルギー効率と再エネ活用率を実現している |
| | 汚染予防・周辺環境配慮 | 全ての事業活動において、周辺環境配慮を徹底している |
| | サプライチェーン | サプライチェーン全体の環境負荷低減を実現する基盤を確立している CSR調達を実現している |
| 信頼される 組織風土 | 企業倫理・法令遵守 | 品格のある会社として企業倫理・法令遵守が徹底されている |
| | 人権尊重 | 人権尊重のための仕組みを確立し、実践している |
| | 情報開示・対話の強化 | 多様なステークホルダーから得た情報を活かし、CSR経営を実現している ステークホルダーに対し積極的な情報開示を行っている |
| | CSR教育・啓発 | 一人ひとりの社員の所属や階層に必要なCSR教育が実施され、CSR経営がなされている |
| | 社会貢献活動推進 | 地域の社会課題解決モデルを広く社会に提示している 災害発生時の暮らしの復旧を支援している |
| | グループ総合力強化 | お客さまの声を大切にし、事業に活かす優れた仕組みを持っている 常に未来の住まいと暮らしの提案をしている グループ内の全ての情報をタイムリーに共有できる仕組みが社員に浸透しており、企業経営に寄与している |

事業と関連性の深い社会課題とSDGs

SDGs(国連の持続可能な開発目標)の17目標のうち、長谷エグループの事業と関わりの深い10目標を特定しています。長谷エグループの事業は世界の社会・環境課題と密接な関わりがあることを認識し、事業を通じた課題解決によって、社会価値の創造と長谷エグループの成長を両立させていきます。

暮らしを取り巻く社会課題領域

気候変動対応 生態系保全 安全・安心 防災・災害対応
 地域活性化 人口動態変化・高齢化社会への対応
 ダイバーシティ推進 女性活躍 健康・医療・介護
 職業教育・雇用機会創出 保育・子育て 持続可能な消費 資源循環

